# 令和元年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポートの概要

## １　作成趣旨

今年度、「県民の幸福感に関する分析部会」（以下「分析部会」という。）で検討した以下の項目について、その結果を取りまとめたもの。

**(1)　「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の調査設計**

新たに、令和２年１月から実施する「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」（以下「パネル調査」という。）が、県民の意識を的確に把握できる内容となるよう、調査対象者及び調査項目について検討した。

**(2)　過去の県民意識調査の分析**

来年度から、上記パネル調査の結果を踏まえながら、県民意識調査で把握した県民の幸福に関する様々な実感を分析していくこととしていることから、来年度以降の分析の参考とするため、過去の県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、属性別の差や時系列の変化の有無を確認、整理した。

## ２　検討課題１：パネル調査の調査設計

○　幅広く県民の意見を把握するとともに、必要に応じて広域振興圏別に分析を行うことを想定し、居住地、性別、年齢階層を考慮して対象者を選定した。

○　県民の意識を政策評価に的確に反映できるよう、調査項目を設定した。

**【パネル調査の概要】**

①　対象者数　　県内に在住する 18 歳以上の男女 600 人（毎回固定）

②　調査時期　　毎年１～２月（県民意識調査と同時期）

③　調査項目　　主観的幸福感、分野別実感、分野別実感の判断理由　等

## ３　検討課題２：過去の県民意識調査結果の分析

**(1)　分析対象調査の概要**

①　対象年　　平成28年～平成31年の県民意識調査結果（４か年分）

※幸福についての設問は、平成28年に追加になったもの。

②　対象設問　主観的幸福感（１問）、分野別実感（12 問）

**【県民意識調査の概要】**

①　対象者数　　無作為抽出された県内居住する18歳の男女5,000人

②　調査時期　　毎年１～２月

③　調査項目　　主観的幸福感、分野別実感、生活満足度、施策の重要度、満足度　等

**(2)　主観的幸福感の分析結果**

**①　平成31年調査の属性別分析結果**

○　県計では、「幸福」及び「やや幸福」と感じる人の割合は、５割を上回っている。

○　性別では「女性」が、年齢階層別では「70 歳以上」が、職業別では「専業主婦（夫)」が高い。

○　世帯構成別では「夫婦のみ世帯」が、子の人数別では、「子どもが２人」が高い。

○　県南、県北広域振興圏に比べ、県央、沿岸広域振興圏の主観的幸福感が高い。

（裏面に続く）

② 平成28年～31年の時系列分析結果

○ 県計の主観的幸福感は、４年間横ばいで推移している。

○ 広域振興圏別では、県央、沿岸、県北で４年間横ばいで推移しており、県南では、H28 年から H30 年まで横ばいで推移し、H30 年から H31 年にかけて低下している。

(3) 主観的幸福感に関連する 12 の分野別実感の分析結果

① 平成31年調査の属性別分析結果

○ 分野別の実感は、年齢階層別では「70歳以上」が、子の人数別では「子どもが２～３人」がそれぞれ高い傾向にある。

② 平成28年～31年の時系列分析結果

○ 上昇傾向にある分野別実感
「地域の安全」、「地域社会とのつながり」、「余暇の充実」の３分野

○ 横ばいで推移している分野別実感
「仕事のやりがい」、「心身の健康」、「家族関係」の３分野

○ やや低下傾向にある分野別実感
「子どもの教育」、「歴史・文化への誇り」、「自然のゆたかさ」の３分野

○ 上昇と下降が続く分野別実感
「必要な収入や所得」、「子育て」、「住まいの快適さ」の３分野